

令和4年6月10日、山梨大学名誉教授の加藤繁美先生をお招きして、第1回加藤繁美保育ゼミが開催されました。初回となる今回のゼミでは、「対話的關係」について講義形式でお話していただきました。

日々、子どもたちと向き合う中で保育実践を記録し、保育を語り合い、分析する力をつけていくにはどのようにしたら良いのか？全5回のゼミでは受講者の皆さんが主体となって話し合える場を設けながら、「対話する保育」についてしっかり学びを深め、実践に繋げていけたらと思っています。

～加藤先生から学ぶ対話的關係(研修ダイジェスト)～

対話とは？

対話と会話の違いはあるの？

会話＝話し合いの機能、話し言葉でのやりとり

対話＝相手の表情を見ながら何を感しているかを捉え、

互いの違いを大事にしなが相手を理解しようとし、
コミュニケーションをとること

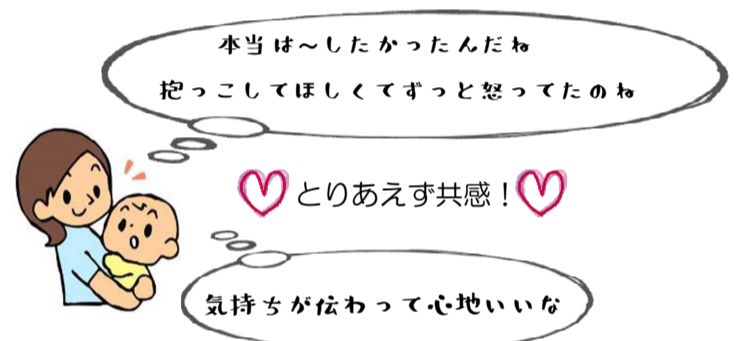
～保育の現場での対話的關係とは??～

『自分の考えと違う人と交
じり合うことは心地良い』
と思う社会を、保育者が子
どもと一緒に作り出すこ
とが大切！

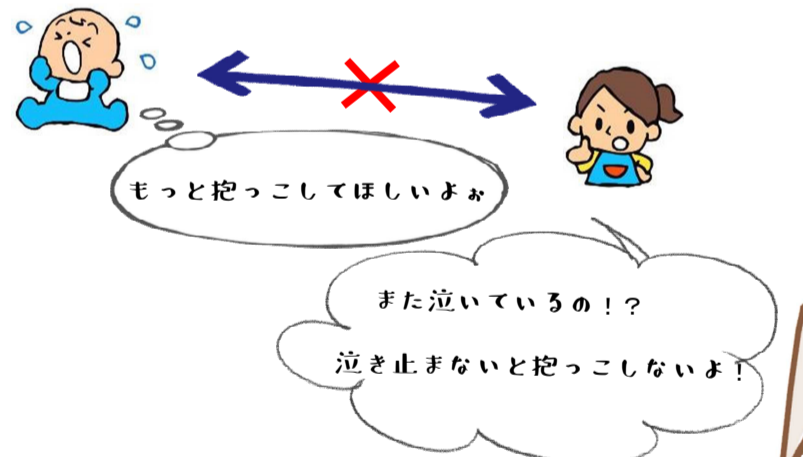
子どもたちとたくさん話をす
るだけではなく、子どもの表
情を見ながら何を考えている
か？求めているか？考えなが
ら関わること。表面の声を受
けとめながら真実の声を読み
とること。

とりあえず共感

子どもの行動にはすべて大切な意味があります。
まずは子どもの立場になって、何を求めているかを読み解き、
共感することばをかけてみましょう。
最初の一言（第一声）で、その後の関りが決まってくるので、
子どもの行動、ことばに対して『とりあえず共感！！』する
ことが大切です。



共感せずに叱る、共感せずに否定することばを使っていませんか？



私の保育と別の人の保育をつなげよう

～グループディスカッション～

ゼミの目的でもある『自分たちの実践を語りながら話し合い、議論し、分析する』という力を身に付けていくために、初回は加藤先生著書の「記録を書く人 書けない人」に記載されているA先生の実践記録を題材に、5～6人のグループでA先生に送る「3つのアドバイス」を話し合い、発表しました。



『記録を書く人 書けない人』
加藤繁美 著
P40～54 より抜粋

保育実践を記録し、分析し、職員間で共有する意味・意義がよく分かりました。自分の園でもそのような時間を
持つことを試み始めましたが、まだ十分でないところも
あるので、今後の参考にしたいです。
また、「第一声にその保育士の保育観が出る」「とりあえ
ず共感を」という話が正にそうだなと実感しています。
とても分かり易いフレーズなので、この点も職員間の話
題に出すなどして、職員同士の前向きな振り返りに活か
していきたいと思っています。
(にいくら保育園 中野先生)



「対話」の視点が非常に勉強になった。「会話がなくても相手のことを分かってもらうこと」この事は対子どもだけではなく、対職員、対保護者、対家族…等、人と人が関わる際に最も大切な根っこ部分だと思った。相手のことを受け入れる余裕を持つことは思いやりにつながる。優しい心を持って、1人ひとりの相手との関わる時間を温かいものにしていきたい。
(みなみ保育園 菅澤先生)

加藤先生のお話には惹き込まれ、あっという間の1時間半でした。様々な保育施設の先生方と保育について語り合える時間はとても貴重だと感じています。今後もどうぞよろしくお願いいたします。
次回は 8月18日(木) 13:30～15:00 和光市役所602会議室でお待ちしています！！
(研修担当) 保育センター 保育士 寺尾道代